

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職，小中教員による授業参観や報告，小中合同研修会等，様々な機会を捉え，取り組み状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ まじめに授業に取り組むことができる生徒が多い。国語科において「言語活動」についての知識の定着が見られる。基本的な読み書き，計算の力が定着している。 ● 学力の個人差が大きい。また，単語や漢字などの基本的事項を反復学習することが苦手な生徒が見られる。	・毎日，自主学習ノートを利用して，漢字・計算・英単語等を反復練習し，知識・技能を身につけることができる。 ・読書を通して，言語活動の基礎となる文章表現を学び，日常生活の中で活用ができる。	・授業中，漢字や計算の反復練習をさせ，学習方法を知らせ，家庭学習で取り組めるように指導する。 ・单元ごとの小テストやセミナーテストを定期的に行い，基礎的・基本的知識の定着を図る。 ・読書記録をつけさせ，読書数の少ない生徒に声をかける。また，機会を捉えて本の紹介をする。 ・「めあて」「振り返り」を位置づける授業を行い，わかりやすい授業を行う。	・授業の始めに，前時の復習プリントを行う。 ・言葉の知識を増やすために，意味を説明したり，季節や行事にあわせて，ことわざを紹介する。	・自主学習ノートを活用し，単語の反復や英作文の練習を行うことで，知識の定着を図ることができた。 ・授業の始めに復習小テストしたり，単元の終わりにまとめの学習をすることで，知識の定着を図った。 ・図書室に図書紹介コーナーを作り，生徒がお薦めの本を紹介することで，読書への関心をもつ生徒が増えてきた。 ・ワークシートの最後に授業の感想を書かせ本時の授業の振り返りをする事ができた。	・授業の始めに小テストをし，前時の学習内容が定着できているかを確認する。 ・読書記録をつけさせるとともに，生徒同士で本を紹介しあう機会を設け，読書への興味関心を持たせる。 ・休み時間や昼休み等を利用し，ネット型ドリル学習の利用を定着する。
児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 与えられた課題に意欲的に取り組み，より良い結果を求めて工夫し表現できる。 ● 文章を読み取る力，記述式の問題に対して，自分の考えをまとめ，文章で表現する力をつけるのが課題である。	・課題解決に向けて，様々なものの見方や考え方を理解し，情報収集，整理，分析をすることができる。 ・根拠や理由を明確にしながら，自分の思いや意見をわかりやすく伝えることができる。 ・スカイプ，ビデオレターなどを通して，海外の人たちに日本の文化や学校生活について自分の考えを伝えることができる。	・タブレット，ホワイトボード等の教育機器を使い，スピーチや討議など，ペアやグループなど様々な形式で発表させる。 ・記述式の問題を解くポイントを教え，順序だてて考える練習をさせる。また，授業中，生徒が発言する機会を多く設定する。 ・ブラジルやアメリカとの交流に加え，フィンランドの生徒たちとの交流経験を増やし，ステップアップできるように教師が支援する。	・各教科でタブレットを活用することで，プログラミング的思考を育成する。	・タブレットやホワイトボードを使い，各自の意見の比較をし自分の意見をまとめることができた。 ・視覚的に得にくい空間図形や関数のグラフの点の描写を教育機器を利用し，思考力を高めることができた。 ・フランス，ブラジル，オーストラリアの生徒とスカイプやビデオレターや手紙を書くことによって，積極的交流でき，自信をもって参加できるようになった。 ・ペア学習やグループ学習を定期的に行うとリーダーシップをとれる生徒の育成を図ることができた。	・学校行事やふるさと学習でICT機器などいろいろな形式で発表する機会を設けることで，自分の考えを表現できる。 ・メタモジクラスルームを活用して，「考えを共有する」「話し合う」「説明する」などの場面を各教科の授業で取り入れ，積極的に活用する。 ・フィンランドの友だちとEメールを通じて，国際交流を深める。
児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 自主学習ノートを継続することができ，課題も確実に提出できる生徒が増えてきた。また，ペア学習や班活動でリーダーシップのとれる生徒が育ってきた。 ● わからない問題に対して，粘り強く取り組む姿勢が不足している。またテスト前における家庭学習時間には減少の傾向が見られる。	・自分が決めた目標に向けて，学習することができる。 ・学習に主体的に取り組み，自らの疑問を積極的に解決していくことができる。 ・授業で学んだことを振り返り，自らの課題を見つけ，自分にあった学習方法を見いだすことができる。	・英検，漢検の受検率80%を目指す。 ・定期テスト前に学習計画表を作成させ，目標設定して達成できるように支援する。 ・定期的に教師による質問教室を開き，生徒の疑問を解消させる。 ・学びの過程を振り返りできるノート(エラーノート等)の指導をし，自ら，復習できるように支援する。	・英検対策を休み時間や放課後に行う。	・英検の受検率100%を達成できた。 ・また，放課後，受検者全員に補習を行い，その後自主的に勉強することができた。 ・受検者の中で，難しい問題にも興味をもちハイレベルの級への受検に挑戦する意欲が出てきた生徒が増えた。 ・定期テスト前の平均家庭学習時間が，1年生は2.3時間，2年生は3時間，3年生は4.3時間という結果になり，各学年増えた。	・漢検の受検率80%をめざす。 ・定期テスト前の学習計画表を立てさせ，アドバイスをし，目標を達成できるように支援する。 ・自主的に学習できるように，テスト前の放課後，自習教室を設け，テスト勉強や質問教室ができる環境をつくる。 ・定期的に家庭学習時間のアンケートを行い，家庭学習の定着を図る。



